

■①環境分野の計画における目標像等一覧

	京都市地球温暖化対策計画 2021-2030	京都市生物多様性プラン 2021-2030	京・資源めぐるプラン 京都市循環型社会推進基本計画 2021-2030	京都市環境基本計画 2016-2025
目標像	【2050 年の京都が目指す社会像】 自然との共生の中で育んできた生活文化や知恵、新たな技術や知恵を融合し、脱炭素が生活の質の向上、持続的な経済発展と共に実現されている「将来の世代が夢を描ける豊かな京都」 ※「2050 年 CO2 排出量正味ゼロ」の達成を前提とする。 【2050 年の社会像「暮らしの姿」】 住まい 使用量以上のエネルギーを生み出す環境性能の高い住宅を選び、快適で健康な暮らしが標準化 消費行動 「所有」から「シェア」への意識の変革をはじめ、地球環境、社会などに配慮したスタイルが定着。食材などは近郊の資源を活用するとともに、京の食文化を軸とする生活が定着 つながり 地域をはじめ多様なコミュニティのつながりの中で、融通、地産地消などエネルギーや資源の有効活用が普及 【2050 年の社会像「仕事の姿」】 オフィス 環境性能が高く、健康・快適で、エネルギーを自給自足するオフィスビルが標準化 ビジネススタイル 「大量生産・消費」のビジネスモデルから脱却し、持続可能な資源・エネルギー利用を前提としたビジネスへ移行 働き方 仕事環境のデジタル化や通勤やオフィスの概念の変化等を通じて、時間や場所にとらわれない働き方が定着 イノベーション 大学や企業など、京都の知恵を生かした、新たなイノベーションやビジネスが創出され、世界の脱炭素化にも貢献 【2050 年の社会像「まちの姿」】 エネルギー 再生可能エネルギーの余剰電力の地域・コミュニティ単位での活用システムや再生可能エネルギーを多く生み出す近隣自治体との連携等により、再生可能エネルギーの供給が様々な形で行われ、使用するエネルギーは 100%再生可能エネルギー化。二酸化炭素を排出しない水素等のエネルギーが普及。災害時のエネルギー供給も確保され、都市のレジリエンスが向上 移動 自動運転や AI 等の新技術を活用した高度な交通システムの構築などにより、移動がより効率的で快適になり、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の取組が進展し、「出かけたくなる」魅力と活力あふれるまちが実現 森林 木材生産のほか、環境学習やレクリエーションの場などとして積極的に活用され、二酸化炭素の吸収、生物多様性の保全等に貢献 農地 地産地消の推進や環境に配慮した農業への支援などを通じて、農地が適切に維持・管理され、二酸化炭素の吸収、生物多様性の保全等に貢献 土地利用 建築物の構造の工夫、街路樹や緑地の適切な配慮等により、暑熱や豪雨等の影響軽減にも資する安心・安全で快適なまちづくりが浸透	【2050 年のあるべき姿】 自然を慈しみ、自然に感謝し、自然と共に、京都の暮らし・文化・産業が継承・発展される「自然共生のまち・京都」 【2050 年までに達成すべきこと】 ①生物多様性の持続可能な利用 ・文化や生活を継続するために必要な生態系サービスが回復し、自然のバランスを保ちつつ、持続的な利用されている。 ・地球温暖化への適応や防災・減災等の様々な社会的課題に対し、自然が持つ機能を十分に活用する。 ②生物多様性の保全・回復 ・人為的な原因により生態系・種・遺伝子の多様性の損失が一切行われない状況になっている。 ・世界の平均気温の上昇を 1.5℃以下に抑え、地球温暖化による生物多様性による影響を最小限に回避する。 ③ライフスタイルの転換 ・一人ひとりが自然を身近に感じ、生物多様性の問題を「じぶんごと」として認識する。 ・一人ひとりが生物多様性の持続的な利用と保全・回復のために行動・選択している ④社会変革に向けた仕組みの構築 ・社会経済活動において、生物多様性の持続的な利用と保全・回復が組み込まれている。 ・各主体がそれぞれの立場で生物多様性保全の担い手として活躍している	【基本理念】 モノの生産に必要な最小限の資源が循環利用されるくらしや事業活動の下、地球環境への負荷が持続可能なレベルに抑えられ、自然災害や長寿社会の進展等にもしなやかに対応できる「持続可能な循環型社会」 ※2050 年の世界の都市のあるべき姿を基に経済的・社会的側面の視点を更に広げ、上記の実現を目指す。	【目指す環境像】※年限定めず 地球環境にくらしが豊かに調和する「環境共生と脱炭素のまち・京都」 【長期的目標】※年限定めず (1)持続的な発展が可能となる脱炭素のまち (2)生物多様性豊かな自然環境と調和した快適で安心・安全なまち (3)資源・エネルギーの有効利用と環境負荷の低減を図る循環型のまち (4)環境保全を総合的に推進するためのひと・しくみづくり
	■2050 年脱炭素ライフスタイルビジョン 【ビジョン】 京都の自然と共生する文化やしまつのことを礎に、自分らしい持続可能な暮らしの選択で実現するカーボンニュートラルで豊かな社会 ■（参考）2050 年の世界の都市のあるべき姿 ～持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言～から ・生命の源であり炭素吸収源でもある自然との共生が実現している。 ・ものを大切にする「もったいない」、「しまつ」の精神などに基づく生活文明の再構築により、市民の価値観やライフスタイルの転換が進んでいる。 ・環境教育・学習の促進により、様々な課題を自分自身の問題として捉え、自ら行動し、持続可能社会を構築する「担い手」が育成されている。 ・脱炭素に貢献する技術革新と同時に、気候変動による影響への適応策が十分に進んでいる。 ・廃棄物に含まれる有用金属等を再資源化する「都市鉱山」の活用などにより、循環型社会が構築されている。 ・省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの利用が飛躍的に拡大し、都市によるエネルギー自治が実現している。 ・都市交通システムの高度化により、環境負荷の低減と利便性の向上が両立している。 ・持続可能な社会の実現に向けた取組が貧困や格差などの社会問題の平和的解決に貢献している。			

■②環境分野の計画における施策体系等一覧

	京都市地球温暖化対策計画 2021-2030	京都市生物多様性プラン 2021-2030	京・資源めぐるプラン 京都市循環型社会推進基本計画 2021-2030	京都市環境基本計画 2016-2025
施策体系	【緩和策】 １ ライフスタイルの転換 ①地域の課題解決や生活の質の向上・意識改革につながる「京都版・脱炭素型ライフスタイル」の普及・定着 ②環境や社会問題に配慮して商品・サービスを選ぶことで社会を変えるエシカル消費の推進 ③住まいと家電等の省エネ化と再生可能エネルギー投入で進める暮らしの質の向上 ④脱炭素型ライフスタイルへの転換を支える担い手の育成 ⑤2050 年に向けたイノベーション～ライフスタイル編～ ２ ビジネスの転換 ⑥事業活動における更なる対策の推進 ⑦環境と経済の好循環を生み出す仕組みづくり ⑧2050 年に向けたイノベーション～ビジネス編～ ３ エネルギーの転換 ⑨市内再生可能エネルギーの最大活用 ⑩再生可能エネルギー電気の利用促進 ⑪エネルギー供給事業者による再生可能エネルギー供給の促進 ⑫2050 年に向けたイノベーション～エネルギー編～ ４ モビリティの転換 ⑬公共交通優先のまちづくりの推進 ⑭EV をはじめとする次世代自動車の普及 ⑮自動車利用意識の転換 ⑯2050 年に向けたイノベーション～モビリティ編～ ○ 森林・農地等の吸収源対策 ⑰森林整備の推進 ⑱農業・農村の維持・発展 ⑲緑地の保全 ⑳地産地消の推進 【適応策】 ①自然災害 ②健康・都市生活 ③水環境・水資源 ④農業・林業 ⑤自然生態系 ⑥文化・観光・地場産業	【2030 年度までの目標】 １ 京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用を図る ①京都の文化を支える生物資源を持続的に利用する。 ②自然が持つ多様な機能を利用して、都市のレジリエンスの向上を図る。 ③生物多様性を活用した持続可能な観光を創出する。 ２ 生息・生育地と種の多様性を保全・回復する ①多様な動植物が見られる重要な生息・生育地の環境を改善する。 ②里地里山の生物多様性の劣化を食い止め、回復を図る。 ③種の絶滅を食い止める。 ④生態系や人の健康、農林業に被害を及ぼす外来生物の拡大を防止するとともに、新たな定着を阻止する。 ⑤海洋汚染につながる河川のプラスチックごみを削減する。 ⑥地球温暖化を緩和する（温室効果ガス排出量 2013 年度比 40%以上削減） ３ 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を図る ①生物多様性に配慮した消費行動が広がっている。 ②一人ひとりが自然を身近に感じ、暮らしている。 ③一人ひとりが生物多様性とのつながりを認識している。 ④一人ひとりが生物多様性のために行動している。 ４ 社会変革に向けた仕組みを構築する ①生物多様性に配慮した経済活動を促進する。 ②生物多様性保全のための活動を支援する。 ③生物多様性に関する情報の集約・発信力を強化する。 ④生物多様性の現状を把握するための知見を集積する。 ※具体的な目標の到達点である「達成項目」を実現するための施策（取組の方向性）は右欄のとおり	【2030 年度までの重点施策】 １ くらしと事業活動における 2R の推進及びリニューアブルへのチャレンジ ①市民・事業者・行政の協働による 2R の促進 ②全国をリードする「食品ロス削減のまち」の実現 ③徹底した使い捨てプラスチックの削減 ④観光（おもてなし）とごみ対策の調和 ⑤再生可能資源等の利活用の促進による化石資源からの脱却 ２ 質の高い資源循環に向けた分別・リサイクルとエネルギー創出の推進 ⑥市民・事業者・行政の協働による分別・リサイクルの促進 ⑦食品廃棄物や木質ごみ等のバイオマスのリサイクルの促進 ⑧徹底したプラスチックの資源循環 ⑨イノベーションの促進 ３ 自然災害の発生や長寿社会の進展等にもしなやかに対応できる強靱な適正処理体制の構築 ⑩廃棄物処理体制の更なる強靱化に向けた適正処理の推進 ⑪強靱な災害廃棄物処理体制の構築 ⑫高齢者に対するごみ出し支援等の促進 【生物多様性プラン 2030 年度までの施策】 (1)①文化を支える生物資源の持続可能な利用 ②自然の持つ機能を活かした緑と水辺の整備 ③サステナブルツーリズムの推進 (2)①重点保全地域における保全強化 ②里地里山の保全・回復 ③希少種の保全・回復 ④外来生物対策 ⑤プラスチックごみへの対策 ⑥地球温暖化に対する緩和策と適応策の推進 (3)①エシカル消費の推進 ②自然とのふれあいや学習の機会の充実 ③生物多様性の学びの拠点の充実 (4)①生物多様性に配慮した企業活動の促進 ②公共施設・事業における配慮 ③生物多様性保全のネットワーク形成 ④情報の集約・発信 ⑤知見の集積	【長期的目標ごとの基本施策】 １ 持続的な発展が可能となる脱炭素のまち ①社会・経済活動の転換を通じた、徹底した省エネルギーと再生可能エネルギーの飛躍的普及拡大等による地球温暖化対策の推進 ２ 生物多様性豊かな自然環境と調和した快適で安心・安全なまち ①安心・安全な生活環境の保全 ②生物多様性豊かな自然環境の持続可能な利用と保全 ③自然環境と調和した文化や暮らしが広がる京都人らしい快適生活の確保 ３ 資源・エネルギーの有効利用と環境負荷の低減を図る循環型のまち ①くらしと事業活動における 2 R の推進及びリニューアブルへのチャレンジと質の高い資源循環に向けた分別・リサイクルとエネルギー創出の推進 ②自然災害の発生や長寿社会の進展等にもしなやかに対応できる強靱な適正処理体制の構築 ４ 環境保全を総合的に推進するためのひと・しくみづくり ①環境教育・学習を通じた理解と行動の促進及び人材育成 ②広範な主体の協働による環境保全活動の促進 ③地産地消をはじめとする環境に配慮した社会経済のしくみづくり 【環境配慮指針】 ①市民の環境配慮 ②事業者の環境配慮 ③市の環境配慮

■③環境分野の計画における数値目標・指標（進行管理）等一覧

	京都市地球温暖化対策計画 2021-2030	京都市生物多様性プラン 2021-2030	京・資源めぐるプラン 京都市循環型社会推進基本計画 2021-2030	京都市環境基本計画 2016-2025
数 値 目 標 ・ 指 標	○市域からの温室効果ガス排出量 （目標） ・2030 年度までに 2013 年度比 40%以上削減 （46%以上とすることを市長から宣言済） （進行管理） ・総排出量及び部門別（産業・家庭・業務・運輸・その他）排出量、エネルギー消費量の推移により進行管理（翌翌年度の 8-9 月頃に排出量を公表） ○施策の実施状況 （進行管理） ・「4 つの転換」（ライフスタイル・ビジネス・エネルギー・モビリティ）「吸収源対策」「適応策」それぞれ、個別施策（10～60 施策）の取組状況を「進行中」「実施予定」「検討中」「未着手」に区分して整理 ・年次報告書では、実施状況とともに主な具体的な施策を提示しながら説明。	【数値指標】 1 京都市らしさを支える生物多様性の持続可能な利用を図る ・鴨川のアユの遡上数 ・市内産チマキザサの利用量 ・「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」取組者数（累計） ・自然環境と調和した文化や暮らしが広がっていると感じている人の数 ・京都市域における自然共生サイトの認定面積 ・京都市域における二酸化炭素吸収量（森林、農地、緑地） ・雨庭の整備地点数（累計） ・親水性のある水辺空間の整備率 ・（観光客）自然・風景を経験した割合 ・（事業者）「景観・環境」につながる行動を 1 つ以上の項目で積極的に取り組んでいる事業者の割合 2 生息・生育地と種の多様性を保全・回復する ・重点保全地域における評価指標（検討中） ・京都市域における自然共生サイトの認定面積 ・環境保全型農業取組面積（環境保全型農業直接支払交付金の取組面積） ・間伐・保育等実施面積 ・三山森林景観保全・再生ガイドラインに基づく、市民等との協働による森づくり活動の回数（累計） ・野生鳥獣による農林産物被害額 ・ミナミメダカの発見数 ・京都市域における自然共生サイトの認定面積 ・市内に生息・飼育している京都府レッドデータブック掲載種のうち、絶滅の危険度のランクを下げた種数（累計） ・「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」取組者数 ・侵略的外来生物等の防除の取組件数 ・地域根絶が達成された件数（地点数） ・新たな侵略的外来生物の定着確認数 ・プラスチックごみを減らすために取り組んでいる人の割合 ・淀川クリーン作戦で回収されるごみ量 ・京都市域の温室効果ガス排出量削減率 ・京都市域における二酸化炭素吸収量（森林、農地、緑地） 3 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を図る ・「エンカル消費」の認知度 ・コープ商品のエンカル消費対応商品の売上額（京都市の人口／日本の人口） ・買い物をする時やサービスを利用する時に、エコマーク、省エネラベル、持続可能な森林経営、化学物質に頼らない食品などの環境ラベルを見て買う人の割合 ・暮らしの中で、自然を身近に感じる機会がある人の割合 ・暮らしや経済活動が多様な生きものから受ける恵みにより支えられていると感じている人の割合 ・暮らしの中で生物多様性に配慮している人の割合 ・京の生物多様性担い手宣言制度の宣言数 ・担い手宣言者の宣言後に実践した行動（アンケート調査の内容を検討中） ・環境保全活動プログラムの参加者数（うち自然共生がテーマのもの）	【数値目標】 （1）ごみ量に関する目標 ①市受入量 ②ごみ焼却量 （2）2 Rに関する目標 ③レジ袋使用量（家庭） ④ペットボトル排出量 ⑤（参考指標）使い捨てプラスチック排出量 ⑥食品ロス排出量 （3）リニューアブルに関する目標 ⑦(参考指標) バイオプラスチック製容器包装排出割合 （4）分別・リサイクル（エネルギー創出含む）及び適正処理に関する目標 ⑧プラスチックごみ分別実施率（家庭） ⑨食品廃棄物リサイクル率（事業） ⑩再生利用率 ⑪最終処分量 （5）脱炭素に関する目標 ⑫廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量 ・進捗管理は、（1）～（5）ごとに数値指標と目標の達成状況を掲げるとともに、関連する施策の実施状況やアンケート等の結果により補完しながら説明。 ・取組の実施状況については、基本施策ごとに説明。 4 社会変革に向けた仕組みを構築する ・自然共生サイト認定数 ・TNFD の賛同団体数 ・企業における認証制度の取得数(SEGES など) ・京の生きもの・文化協働再生プロジェクト取組者数 ・公共建築物における CASBEE 京都 S または A ランクの割合 ・京の生物多様性担い手宣言制度の宣言数 ・ポータルサイトでの生物多様性保全に取り組む団体の紹介数 ・環境保全活動プログラムの参加者数（自然共生がテーマのもの） ・ポータルサイト閲覧者数 ・SNS の閲覧数・いいね数 ・ポータルサイトに掲載したイベント数 ・京の生きもの生息調査報告数	・以下の主観的指標（◎）の状況及び客観的指標（☆）の目標到達状況により進行管理 1 持続的な発展が可能となる脱炭素のまち ◎豪雨や熱中症など地球温暖化の影響と思われる危機が私たちの生活に迫りつつあると感じるか ◎省エネルギーや節電の取組が年々進んでいると感じるか ◎再生可能エネルギー導入の取組が年々進んでいると感じるか ◎徒歩や自転車、公共交通優先の取組が年々進んでいると感じるか ☆温室効果ガス総排出量削減率 ☆エネルギー消費量削減率 ☆消費電力に占める再生可能エネルギー比率 2 生物多様性豊かな自然環境と調和した快適で安心・安全なまち ◎空気や河川の水がきれいに保たれていると感じるか ◎多様な生きものが生息する良好な自然環境が保たれていると感じるか ◎自然環境と調和した文化や暮らしが広がっていると感じるか ☆大気汚染に係る市保全基準達成状況 ☆水質汚濁に係る市保全基準達成状況 ☆京の生きもの・文化協働再生プロジェクト取組者数 3 資源・エネルギーの有効利用と環境負荷の低減を図る循環型のまち ◎マイバッグの携帯などのごみを出さない暮らしが広がっていると感じるか ◎ごみを分別して出せる拠点があり、ごみの分別・リサイクルが進んでいると感じるか ☆ごみ焼却量 ☆食品ロス排出量 ☆プラスチックごみ分別実施率 4 環境保全を総合的に推進するためのひと・しくみづくり ◎学校や会社、地域で環境学習や環境保全活動の機会が増えていると感じるか ◎環境に配慮したライフスタイルが広がっていると感じるか ☆環境保全活動プログラム参加者数 ☆京の生きもの・文化協働再生プロジェクト取組者数 ☆京都環境賞応募件数（累計）